

## 令和7年度三重県サステナビリティ委員会 議事概要

日 時：令和7年8月4日（月） 14：00～16：10

場 所：JA三重健保会館 3階 大研修室

出席委員：朴委員（委員長）、百瀬委員（副委員長）、花嶋委員、吉岡委員、川端委員、喜多委員、古田委員、小西委員

### <議事概要>

#### （1）「三重県環境基本計画」の進捗状況について

##### ○事務局説明

資料1-1～1-7に基づき、説明

#### （2）質疑応答・意見交換等

##### （吉岡委員）

- ・緩和と適応の両輪ということで、具体的には何に取り組まれているのか。特に農林水産業に関する取組を紹介してほしい。
- ・四日市市では数年前からプラスチックも燃やせるごみとなったが、三重県として統一されているルールがあるのか、それとも市町単位でやっているのか。

##### （事務局：地球温暖化対策課）

- ・気候変動適応センターにおいて、情報収集や情報提供の充実に取り組んでいる。
- ・近年は熱中症への関心が高いということで、今回のサステナビリティレポートのコラムではクーリングシェルターの指定をはじめとした熱中症対策を紹介する。
- ・事業ベースでは、特に農林水産分野で、熱に強い品種の開発などを進めている。
- ・年2回情報誌『しきさい』を発行しており、県民の皆さんにはこうした事例を情報提供するよう努めている。

##### （事務局：資源循環推進課）

- ・四日市市では、プラスチックをガス化溶融する処理をしており、ごみを熱分解した後、発生したガスを燃焼させている。プラスチックを取り除くとその分、逆に重油を足して燃やす必要があるため、資源として回収することは難しい。
- ・市町のごみ処理体制に関しては、市町が独自に検討し、適切な処理体制を確保するところではあるが、今後、市町と資源循環に取り組んでいく中で、県全体で統一することは難しい面もあるが、より最適な方向を市町と一緒に考えていきたい。

##### （百瀬委員）

- ・これからは、サステナビリティを実現するために、環境課題や社会課題などの課題を同時に解決していく「ネクサスアプローチ」を進めていく必要がある。

- ・産業部門の CO<sub>2</sub> 排出量の構成比が、全国平均が 34%であることに比べ、三重県は 55%である。しかし、森林の CO<sub>2</sub> 吸収由来の J-クレジットを発行し、産業部門が出した CO<sub>2</sub> を相殺させるということも県内でやっている。さらに、森林保全をすれば、生物多様性も保たれる。環境課題の同時解決ネクサスアプローチと言える。
- ・次の基本計画では、三重県における様々な取り組みが、地球環境課題や社会課題を同時に解決する取組であるということをご示してほしい。
- ・きれいで豊かな海について、森は海の恋人であり、海が豊かであることは森林がきちんと管理され、そのミネラルが海に流れているということである。三重県の宝である森と海の生態系を豊かにする取組、その辺の関係性についても、河川と森林をつなげて説明してほしい。
- ・プラスチックを熱エネルギーとして回収することは、世界では、リサイクルとは呼べない。日本は、SDGs の 12 で、使い捨てプラスチックを自国でリサイクルせず、他国に運び出していると、最低レベルと評価されている。三重県には化学工業の分野の事業者が多くいるので、ぜひ容器包装のようなワンウェイプラスチックをケミカルリサイクルして、グリーン水素を創出し、クリーンなエネルギーとして水素にし、使ってほしい。
- ・商業用水素トラックの販売が進む中で、水素ステーションが必要となるが、グリーン水素はまだ準備できていない。三重県でグリーン水素を作り、中京エリアの水素問題の一番の基地となることができるのではないかと期待している。
- ・ネイチャーポジティブということで、三重県の企業は OECM の認定をかなりの件数取っている。「自然共生サイト」という国の認定をうけ、国際データベースにも登録されている。そうしたことに取り組んでいることを、もう少しアピールしてほしい。これからは脱炭素と同等くらいネイチャーポジティブに取り組まないと企業が成り立たなくなると言われている。三重県は、企業も県も取り組んでいるということをもっとアピールしてほしい。

#### (事務局：資源循環推進課)

- ・今まで、廃棄物対策は規制ばかりで、廃棄物のことだけをとにかく集中してやっていたが、それだけでなく、資源循環を進めていく上で、温室効果ガスの削減や熱中症対策、きれいで豊かな海など、様々なメリットにつながる取り組みを資源循環の分野から広げていくことを考える必要があるということで、検討を進めている。そういった観点を含めて次期計画の方で落とし込んでいきたいと考えている。

#### (花嶋委員)

- ・全部をうまくつなげることはなかなか難しいとは思いますが、うまくつなげて、うまく皆さんにお伝えすることが必要。
- ・サステナビリティレポートを作っていることは素晴らしいが、さらにその先もう 1 歩進んで、うまく皆さんに伝えることで、こういうところに住みたいという気持ち

や安心感につながるのではないかと。

- ・環境学習施設の話もあったが、環境や地球温暖化に枠がはまっているけれども、この全体のサステナビリティの話をうまく伝えられるとより広がりがある。
- ・実際にこういう冊子（法令周知マンガ）を作っているし、デコ活のサイトに多くのアクセスがあるというお話もあった。そうした能力を三重県は持っていると感じた。その能力を使って、どうやって皆にこの話を伝えていくのか考えることがこの先必要。

#### （事務局：地球温暖化対策課）

- ・デコ活のポータルサイトでは、伝えるということを非常に大事に考えている。特に脱炭素が新しい豊かな暮らしにつながる、暮らしを変えるということを、非常に重視をして、通常の普及啓発よりも実際に商品を手にとっていただき、より暮らしに近い形で普及啓発を実施している。
- ・環境学習情報センターはリニューアルを予定している。最新の情報技術を使いながら、脱炭素だけでなく、あらゆる環境問題、また皆さんの暮らしにもつながるSDGsの観点も取り入れながら、総合的に伝わるようなセンターにしたいと考えている。その際には1つの取組が様々な効果につながっていくということもぜひ伝えていきたい。

#### （小西委員）

- ・解体工事啓発動画が分かりやすかった。YouTubeの視聴回数が243回だったので、もう少し拡散できるのでは。アイコンの変更など改善の余地はある。
- ・レポートの若者色は年々減っている。また、Webサイトは見に行かないとレビューは上がらないので、アウトリーチ的なものもあっていい。
- ・今回はデコ活に関するInstagramの紹介がなかった。続けてもらっているのかもしれないが、もう少し若者向けの内容があればいい。

#### （事務局：廃棄物監視・指導課）

- ・解体工事啓発動画だけでなく、他の課のSNSも、いわゆるアウトリーチのところが、課題だと捉えている。動画を作っても視聴回数が上がらないところが現状である。Web広告などの形で、ホームページを見ていただいたときに興味があるものが出るような取組も行っている。
- ・Web広告と、街頭でチラシを配る等の地道な活動の両輪が必要。昨年度は9箇所街頭啓発を行ったところ、不法投棄の通報件数がかかなり伸びた。両方でやっていきたいと思っているので、また引き続きご教授いただきたい。

**(朴委員長)**

- ・若い人たちがパッションで盛り上げることで関心を持つようになると思うので、緊密にコミュニケーションを図りながら、具体的にどうすれば多くの人が見られるのか考え、10年後20年後30年後三重を担っていく若い人たちに、1人でも多く伝えることが大事。

**(小西委員)**

- ・ゴミ拾いのアプリについて、四日市大学地域パトロールクラブの方が毎回更新しているが、逆にその方以外は更新していない。大学のサークルなどの方々の協力は必要だと感じた。

**(朴委員長)**

- ・三重県の様々な大学の若い人たちが関心を持っていけるように声かけをしていただければありがたい。私たち委員も、もちろん協力する。

**(川端委員)**

- ・J-クレジット(CO<sub>2</sub>の吸収を換金していくこと)の取組について、産業活動がCO<sub>2</sub>を排出するのは仕方がないが、森林がそれを吸収しているという意味では、林業は非常に重要な産業である。その中で県行造林でJ-クレジットに取り組んでいただいたことは意義が大きい。ただ県行造林自体になじみがないため、県民の方にわかりやすいPRをしていただきたい。
- ・木材価格が低迷している中で、森林の多面的な機能をどう換金していくのかは非常に重要なこと。その一つがJ-クレジットだと思う。
- ・県行造林の収支がどうなっているのか気になる場所である。分収ということは、最終的に上がった収入を所有者の方と分けるということ。利益が上がったときだけに分けるのではなく、収入を分けるとなると、木を植えてから育てて、木を切るところまでの費用は県がすべてもつということだと思うが、最終的な収益が本当に上がっているのか、所有者が回収できているのか、県がものすごい負担をしているのかというところが気になる。
- ・今、木材価格が安いのでそれを補うためにもJ-クレジットは非常に重要だと思う。まずは、現状の県行造林の収支がどうなっているか、をざっくり聞きたい。

**(事務局：森林・林業経営課)**

- ・基本的に土地所有者との契約期限が来たら売り払いをするということで入札を行っている。ただここ最近、入札の公告をかけても、なかなか応札者がいないといった中で、やむを得ずその契約を再び延長する状況である。
- ・延長する中で、公益的な機能を発揮させていくという点において、森林整備は欠かさず継続していく必要があるため、予算も厳しい中で対応していくことである。J

ークレジットの売り上げが確保できれば、その部分にあてられる財源になると期待している。

**(川端委員)**

- ・ J-クレジットの取組が令和5年から令和14年で一区切りになるが、分収の計画期間との関係はどうなるのか。仮に令和14年が過ぎて、J-クレジットが終わり、土地所有者との契約がその後切れるときには、すぐ皆伐してしまうのか。
- ・ J-クレジットでは、おそらくあまり皆伐は推奨されておらず、皆伐したら、基本的には再造林してくださいという扱いになっている。今後、J-クレジットを販売して収入を得たが、契約期間が切れたので主伐してもう裸にしますとなるのか、所有者の方にもう一度お願いをして、また県がそこに再造林するのか、所有者にゆだねるのか、契約が終わると途切れてしまうのは残念だと思う。

**(事務局：森林・林業経営課)**

- ・ J-クレジットの制度上、プロジェクト計画書の計画期間終了後、永続性の担保により、さらに10年間森林経営を維持しなくてはならないという縛りがある。
- ・ 今回の名張の県行造林については、このプロジェクト計画書の契約期間が終了後、さらに10年間は県が責任をもって育てていくことになっている。当然その期間も含め、地元との県行造林の契約期間内にはまっている。
- ・ その上で、県行造林の契約期間が切れた段階でどのようにするかということについては、今の段階では確固たることは申し上げることができない。

**(川端委員)**

- ・ 今回 J-クレジットは約 900 トン創出と認証を受けたとのことだが、これを今後販売するとなると、具体的に買ってくれそうな企業はあるのか。

**(事務局：森林・林業経営課)**

- ・ 899 トンのクレジットを創出したことについては、実は今年の2月の頭に知事の定例会見で発表しており、その後いくつかの企業から問い合わせを受けている。
- ・ しっかり財源に変えていくため、県で別途作っているプラットフォームも活用し、しっかりと PR していきたい。

**(川端委員)**

- ・ そうした取組がうまくいけば、他の県行造林にも広めていくのか。

**(事務局：森林・林業経営課)**

- ・ 一旦はこれを目的としたモデルを示すということをやっているのですが、これをさらに私有森の方に広げていきたい。

(川端委員)

- ・尾鷲市は、進んで様々な企業と具体的にその取組をやっている。実際速水林業でも J-クレジットをとろうかと取組を進めているので、ご指導いただきながら取り組んでいきたい。

(朴委員長)

- ・三重県の森林面積の割合は日本全国平均よりも非常に多いので、三重だからこそ、J-クレジットをうまく成功させることができるのではないかと思う。
- ・速水林業は初めて FSC 認証を取得しているし、J-クレジットのみならず、そういうふうには手を掛け合っていく、輪が広がっていくことを期待したい。

(喜多委員)

- ・商工会議所連合会は、行政に様々な提言や要望をしている。年に一度の知事要望では、最近はず環境の課題を 1 項目入れている。
- ・商工会議所は県内 12 ヶ所あり、それぞれ地域によって具体的状況は違うが、例えば、環境の話でいうと、四日市の商工会議所はコンビナートや四日市港があり、今日聞いた産業部門においていかにカーボンニュートラルを実現するかが課題である。
- ・鳥羽の商工会議所は、海を中心に観光産業の盛んな地域であり、豊かな海ときれいな海というところに関心がある。鳥羽で今一番新しい話題は、鳥羽沖が洋上風力の適地かもしれないということである。もしうまくいけば、国の指定地域へと段階が進んでいくと思うが、そういったことに鳥羽の商工会議所は非常に関心をもっているので、その辺の手続きを着実に進めていただければありがたい。
- ・吉岡委員の水素の話は産業界としては非常に関心が高く、神戸の液化水素のターミナルや米倉山の水電解の水素の施設も視察を行った。これからの水素関連の情報には注目していきたい。
- ・様々な県の取組を聞いたが、廃棄物と不法投棄の対策は県しかできないことである。環境に関する様々な啓発や情報提供は、国や市町、経済団体や民間等、色々な主体がやっていくことだが、廃棄物と不法投棄については、誰か代わりにやってくれるところはないので、県にはそこをしっかりとってほしい。

(朴委員長)

- ・洋上風力の話が 2010 年代にあったときに、どうなるのかと関心を持っていたが、漁業権など色々なことがありその時は実現できなかった。これから再生可能エネルギーなどのことを考えたうえで、三重が持っているポテンシャルを生かしたものもあると思う。

**(事務局：新産業振興課)**

- ・鳥羽沖で洋上風力という話について、私どもも、再生可能エネルギーは、脱炭素社会の実現に向けて非常に重要だと思っているので、促進に向けて動いているところである。情報収集をし、研究を重ねて、関心のある地域に必要な情報を提供して、促進に向けた支援をしていきたい。

**(古田委員)**

- ・県が様々な取組をされていると改めて知った。四日市地域環境対策協議会では情報交換等を行い考えているところではあるが、なかなか進まないところもある。CO<sub>2</sub>の排出削減は大きな課題と認識しているが、経済性との兼ね合いは難しいところではある。
- ・大気、水質、産廃については話題に上がることも多い。CO<sub>2</sub>削減は難しい部分もあるが、将来の話も含め取り組みながらベターをめざしていきたい。

**(朴委員長)**

- ・県からの丁寧な説明、そして委員の皆さんからの非常に前向きな、いろんな提案とコメント、質問等いただいた。
- ・今回配られたクリアファイルは紙から再生したものであり、ブルーのボールペンは「豊かな海」という活動の中で、海で拾ったプラスチックを再生したもので作られている。これはお金のかかることではあるが、学校の子供たちにこの活動が知られ、こういうふうな形で回ってきている、いつかこのクリアファイルを作るための廃紙もない、このボールペンを作るための、海辺のプラスチックゴミもない、そういう社会を作りましょうということで、小さいときから三重を愛して身近なところで関心を持つことによって、ローカルからグローバルとなるとありがたい。感謝とともに、お金がないからこそ、必要な施策にお金使うということをよろしく願いしたい。